令和8年度（2026）　一般廃棄物処理施設の維持管理に関する情報の公表について

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第４条の５の２に基づき、維持管理に関する情報を公表いたします。

１．処分した一般廃棄物（可燃ごみ）の量　■規則　第４条の５の２第１項第１号　イ　関係

区分		月 単位	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計
焼却量	１号炉	t	2,686.15	1,497.06	1,845.08	2,699.18	2,581.03	2,410.45	555.61						14,274.56
	２号炉	t	82.50	2,035.43	2,607.50	2,386.63	399.74	2,405.66	1,907.31						11,824.77
合計焼却量		t	2,768.65	3,532.49	4,452.58	5,085.81	2,980.77	4,816.11	2,462.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	26,099.33

２．燃焼室中の燃焼ガス温度、集じん機に流入する燃焼ガス温度、排ガス中の一酸化炭素（ＣＯ）濃度（すべて日平均値の月平均値）　■規則　第４条の５第１項第２号　ト、リ、ヲ　関係

項目		月 単位	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度平均
燃焼室中の燃焼ガス温度	１号炉	℃	919	915	910	911	917	900	888						909
	２号炉	℃	934	921	906	907	908	905	913						913
集じん機に流入する燃焼ガス温度	１号炉	℃	166	166	163	163	163	160	161						163
	２号炉	℃	165	166	164	161	162	161	165						163
排ガス中のＣＯ濃度	１号炉	ppm	5	5	5	5	5	4	4						5
	２号炉	ppm	4	5	5	6	6	5	5						5
備考			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

３．冷却設備、排ガス処理設備にたい積したばいじんの除去を行った日　■規則　第４条の６第１項第２号　ヌ　関係

項目	１　号　炉	２　号　炉
冷　却　設　備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。
排　ガ　ス　処　理　設　備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。

４．ばい煙量又はばい煙濃度測定結果　■規則　第４条の５第１項第２号　カ　関係

区分	法規制値	単位	１号炉						２号炉					
			１回目	２回目	３回目	４回目	５回目	６回目	１回目	２回目	３回目	４回目	５回目	６回目
排ガスを採取した年月日			R8.5.11	R8.7.16	R8.9.7				R8.5.12	R8.7.17	R8.9.8			
結果が得られた年月日			R8.5.27	R8.8.6	R8.9.28				R8.5.27	R8.8.6	R8.9.28			
ばいじん濃度	0.04以下	g/m^{3}N	0.002未満	0.002未満	0.002未満				0.002未満	0.002未満	0.002未満			
塩化水素濃度	700以下	mg/m^{3}N	11	7	8				6未満	5	6未満			
窒素酸化物濃度	250以下	ppm	22	30	30				26	25	24			
硫黄酸化物濃度	K値による 排出基準	m^{3}N/h	84	84	82				82	83	79			
	測定値	m^{3}N/h	0.17未満	0.17未満	0.16未満				0.16未満	0.16未満	0.14未満			

５．排ガス中のダイオキシン類濃度測定結果　■規則　第４条の５第１項第２号　カ　関係

区分	法規制値	単位	１号炉				２号炉			
			１回目	２回目	３回目		１回目	２回目	３回目	
排ガスを採取した年月日			R8.6.24	R8.9.10			R8.6.25	R8.9.11		
結果が得られた年月日			R8.7.15	R8.10.7			R8.7.15	R8.10.7		
排ガス中のダイオキシン類濃度	0.1以下	ng-TEQ/m^{3}N	0.00000084	0.00000060			0.00000037	0.00000060		

【検査項目等の説明】

・ばいじん濃度　：物の焼却とともに発生する。このうち、すす、完全に燃焼した灰分、燃焼ならびに熱分解による固形粒子をいう。
・塩化水素濃度　：塩化ビニル樹脂等の燃焼の際に発生し、刺激臭を有する無色の気体である。自然界では火山活動等で発生する。
・窒素酸化物濃度　：石油、ガス等の燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等多種多様である。
・硫黄酸化物濃度　：石油や石炭を燃やすとそれらに含まれている硫黄分が酸素と結合して発生する。天然には、火山温泉等に存在する。
・ダイオキシン類　：塩素、酸素、炭素、水素の存在下で、ものが燃焼するときに発生する有機化合物である。ごみ焼却、タバコの煙、自動車の排気ガス、野焼きのほか様々な発生源から副生成物として発生する。